出勤したら病院に行けぬ

ムダな出役検診廃止せよ！

出勤率が悪い――とこのところ職制も大あわて。人員不足が深刻なのはどこの職場でも同じだが、とりわけ常一番は大変だ。

流行性感冒が大流行して、ピークでは七〇％の出勤率とかで、出勤督励が大忙しなのだが、思うようにならない。

常一番勤務の場合でみると、午後五時十分に昇坑して脱衣、入浴して着衣をすませ門を出る頃はもう六時近くなる。病院にかけつけても時間外診療になるので気がひける。

坑内での温度が高いうえに、入昇坑時の寒風でさらされて入浴もする。風邪には最も悪い状態だし、入坑したら最後、医師も看護婦もいないし薬もない。風邪をひいても病院にも行けない実情なのだ。

出勤率の悪いときは七〇％ぐらいで、出勤督励が大わらわなのだが、もともと人員不足が深刻なのはどこの職場も同じこと。

しかし、病にはかてぬ。無理して出勤するより安静が第一と、欠勤することになる。この事情も考えてほしい。

せめて医者にかかれるようにしてほしいものだ。（悩める男）

一カ月以上休業すると、三井病院で出役検診を受けなければならないという制度がある。ただし、三井病院で治療を受けた場合は出役検診は受けなくてもよいという。

三井病院の医師も、市中の開業医も、医師の国家試験にパスし、医師の資格を有している。同じ資格の医師が診療をおこない、疾病は完治したので現場復帰してもよいという判断を下すのであるから、出役検診はあってもなくてもいいようなもので無用の長物ではないだろうか。

しかも、三井病院で治療を受けたら、その限りにあらずとくればいろいろと勘ぐりたくなる。

現場は深刻な人手不足で、猫の手も借りたいような状況だというのに、この出役検診を受けるために余分な休業をとらなければならないとすれば、もったいない話である。（一分会職場新聞『やま』六十八号、一月二十日付から）

寒風にさらされての入・昇坑。せめて、人並みに病院に行けるように……切なる願い。

順風逆風

中小労使の〝反乱〟

○…春闘を前に、今年は大企業と政府に対する中小企業労使の怒りと反乱が目立っている。

○…過日の日経連総会では、中小経営者が「大企業のプラス・アルファ回答は問題だ」と迫る異例の緊張総会となった。また、別の中小経営団体は「仕事をよこせ」と、四千五百人が怒りのデモを行なった。

○…労働界でも「連合は大企業連中心の色彩が強く、中小の運動が見えにくい」と、十四単産百七十万人が連合・中小連協を結成した。連合では、民間労組の六・五％にすぎない大企業が、組合員数では七三％。中小への支援が望まれている。

○…中小単産の多い全労連は、大企業の蓄積還元を掲げて〝本丸攻め〟。日経連との初会談で、大企業内部留保の二・五・で三万五千円賃上げは可能と迫る。

○…中小労使のうめき声は、連合の「中小時短調査」にも満ちている。働く者は「下請けへのコストダウンをやめてほしい」「春闘、低レベルで妥結するな」

「隠しベアを全部公表し、中小のベアにプラスの影響を」と要望。企業側は「十年前の単価に据え置かれている」と苦渋をにじませる。

○…中小は就業者の八〇％、事業所数の九九％と多い。だが、中小政策や労働条件で格差としわよせが目立つ。バブル崩壊は、その〝光と陰〟を分かりやすくしたと言えようか。

○…同時に、大企業労働者も残業減などで家計は火の車だ。大企業の社会的責任と公正は、今や国民的な願い。中小労使の〝反乱〟と大企業労組のタイアップで、日があたり、泣く者のない春闘としたいものだ。

93春闘ズームアップ ②

〝定昇のみ〟は実質賃下げ

日経連は今春闘で「ベアなし・定昇程度」を主張していますが、これでは物価上昇分が目減りし、実質賃下げになるのは確実です。

定昇はベースアップではありません。年齢が一歳上がることによって賃金が上がるという性格のもので、先輩が一年前にしていた生活水準を確保するだけの措置です。

この定昇に加えて、物価上昇分を獲得しないと実質賃金水準はマイナスです。

日経連の調査によると、定昇は昨年二・三％。九二年度の物価上昇率は二％弱と予想されていますから、実質賃金を維持するにはその分の確保が不可欠です。

実質賃金を確保したうえで、さらに生活向上分として国民総生産（GNP）の伸び三・三％（九三年度政府見通し）の上積みが求められます。

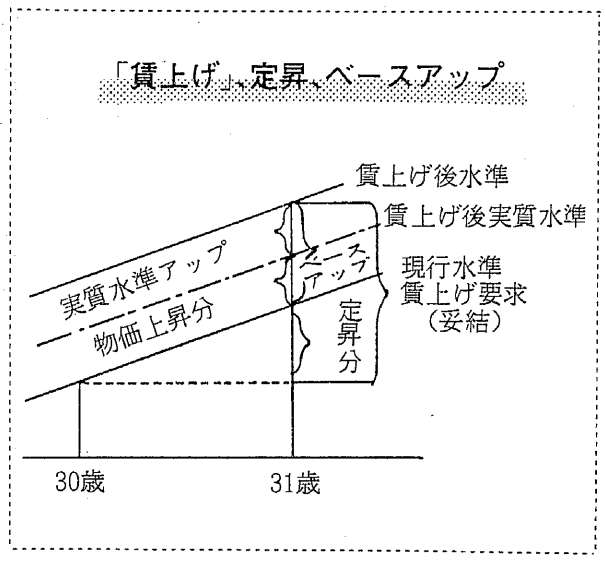
―＜一口メモ＞―

個別賃金は十六年前より実質減

平均賃金が上がっても、実際の賃金水準が上がるとは限りません。

「賃金センサス」から高卒男子の標準労働者（三十歳）の個別ポイント水準をみると、一九七五年の実質を一〇〇として九一年は九九・八と低下しています。

年齢階層別の個別賃金では、三十～三十四歳で九八・一、三十五～三十九歳で九九・八、五十～五十四歳で九三・七です。つまり、この年齢の人は、十六年前の同年齢の人の実質賃金ももらっていないのです。



現代ことわざ考

情けは人のためならず

ことわざの中で、最も間違って解釈されやすいものが、このことわざ。「情け（人に対する親切な気持ち）を人にかけすぎると、その人のためにはならない」という誤りです。正しくは「情けを人にかけておけば、それがめぐりめぐって自分によい報いとなって帰ってくる」という意味です。

最近、障害者やお年寄りの手助けをするボランティア活動をする人が増加。「ボランティア休暇」を導入している企業も増えつつあります。

「物の豊かさ」から「心の豊かさ」が叫ばれる時代。「自分だけ良ければ」という生き方は、いつかしっぺ返しを食うもの。人生お互いに情をかけたり、かけられたりなのです。

あほ・だら

芝岡ゆ友衛

閉山計画に違法判決

英国営炭鉱運動

〝イギリス労働運動の再燃か〟と報じられる英国営炭鉱閉山の反対運動に昨年末、「国営炭鉱閉山計画は違法で、破棄すべき」との高等法院判決が下りた。労組側が提訴していたもの。

英石炭公社（BC）は昨年十月、英政府の指示をうけ、①国営炭鉱五十のうち三十一炭鉱を九三年三月までに閉山、②労働者三万人を解雇――の合理化計画を発表した。BCは石炭需要の減少を理由にあげたが、英全国炭鉱労組（NUM）を中心に炭鉱労働者は抗議の声を強くあげてきた。

英高等法院は判決を十二月二十一日に下した。BCは炭鉱閉山を決める際には労働者と事前協議する義務があるが、今回の閉受決定ではそれを怠ったため違法――が判決骨子だ。

BC側は閉山方針を撤回するつもりはないとしているが、違法判決が動されたことで反対運動の盛り上がりは必至とみられる。

春闘 FOCUS 焦点 Q&A

低額打破へいざ出陣

Q　春闘もいよいよ本番を迎えたわね。

A　労使交渉が展開されているが、経営側は企業の業績低迷を理由に、賃上げ抑制姿勢を崩していない。マスコミでは早くも「三％台後半か」との観測も出始めているよ。

Q　なんで三％台なの。

A　去年が四・九％だったから、物価（九二年度）が一ポイントほど下がる中で、今年は一ポイント減でいいとの理屈だ。日経連は「定昇程度（二・三％）との姿勢であり、それに多小の色をつけようということだろう。

Q　それじゃあ困るわ。

A　もっともだ。定昇の二・三％と物価分二％は生活を維持するうえで最低必要だ。これでさえ、経済成長分は企業側にまる飲みされてしまう。過去十年間で実質GNP（国民総生産）は四・三％伸びたのに対して、実質賃金（名目賃金から物価上昇分を差し引いた分）はたった一・六％。財界は労働者冷遇の産業・企業運営を続けようとしているんだ。

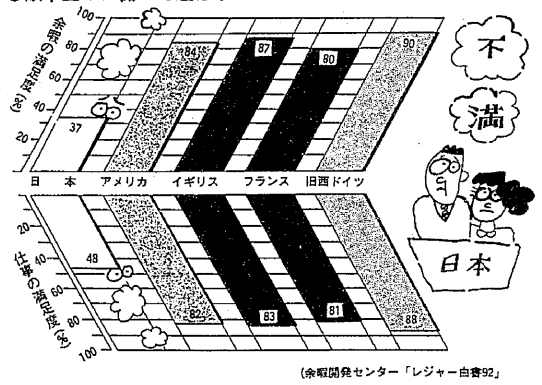
Q　これまでの取り分も少なかったのね。

A　その通りだ。限りなく組合要求額に近い妥結が求められている。円高不況時の八七春闘の賃上げは三・五六％だったけど、その時の物価上昇はゼロなんだ。今回、マスコミが予想する「三％台後半」なんてことになったら、円高不況時よりも生活が悪くなることは確実だ。

Q　でも難しそうね。

A　弱気になる必要はない。労働側も「企業には大きな蓄積があり、七％、二万円以上の支払い能力は十分だ」（連合）、「大企業の内部留保の二・五％で三万五千円の賃上げは可能」（全労連）と強気の構えだよ。中小企業でも「円高不況時より企業の基盤は強化されている」（日経新聞）と指摘されている。

●欧米並みに働いて遊ぼう！



（余暇開発センター「レジャー白書92」）

長時間・過密労働で日常生活もくたくた。遊びに行きたい子供からの突き上げもなんのその、休日はゴロ寝が一番……日本のお父さんの悲哀です。仕事と余暇の満足度はみごとなまでの相関関係があり、それは各国と比較してみると明らか。仕事上手、遊び上手といきたいものです。